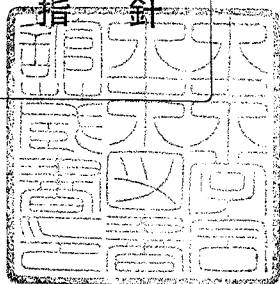


昭和36年度改訂  
土木学会  
プレストレスト コンクリート  
設計 施工 指 針



登 録	昭和40年 4月 6日
番 号	第 100 号
社 団 法 人	土 木 学 会
附 属	土 木 図 書 館

1961年8月

土 木 学 会

## 改訂にあたって

昭和30年に土木学会はプレストレスト コンクリート設計施工指針をはじめて制定したが、その後プレストレスト コンクリートの技術が急速に発展したため、指針の適用が適当でない場合も多くなってきた。このため、昭和33年7月に故吉田徳次郎委員長のもとに指針の改訂委員会が組織され、約3年にわたって調査研究を続け、数次の慎重審議をくり返した結果、ようやく改訂指針の制定をみるに至った。

プレストレスト コンクリート設計施工指針の制定は、故吉田徳次郎委員長の残された、大きな御功績の一つである。不幸にして御他界ののちに、この改訂指針が完成したが、ここに先生の御功績をたたえ、御霊前にこれを捧げるものである。

今回の改訂は、1. PC鋼材の使用範囲を広げたこと、2. コンクリートおよびプレストレッシングの管理を重視したこと、3. パーシャルプレストレッシングに対する、ひかえ目な態度を改めたこと、4. PCグラウトについて具体的に規定したこと、等であり、記述にあたっては国内における調査研究の成果を、できるだけとり入れることに努めた。

プレストレスト コンクリートの技術は日進月歩のものであり、その応用分野はますます広がってきている。改訂指針制定後も委員会を存続し、各種問題点の解明に努力し、次の改訂のための準備を継続する予定である。できるだけ早い時期に再び改訂されることを希望する次第である。

今次の改訂にあたり、終始一貫して勤勉努力を重ねられた委員各位に対して、厚く御礼申上げる。

昭和 36 年 6 月

土木学会プレストレスト コンクリート設計施工指針改訂委員会  
委員長 国 分 正 胤

昭和 36 年度プレストレストコンクリート (50 音順)  
設計施工指針改訂委員会委員

委員長 国分正胤  
主査 猪股俊司  
グラウト  
主査 樋口芳朗

委 員

井上六郎 <sup>○</sup> 幹事	伊東茂富	板垣隆義 <sup>○</sup>	猪瀬寧雄
猪又稔 <sup>○</sup>	今村浩三 <sup>○</sup>	岩崎訓明 <sup>○</sup>	上前行孝 <sup>○</sup>
小田純夫 <sup>○</sup>	大西清治 <sup>○</sup>	岡田清	柿崎博雄 <sup>○</sup> 幹事
川口輝夫 <sup>○</sup>	木村公道	木村又左衛門	杵掛哲男
国広哲男	小寺重郎 <sup>○</sup>	木庭宏美	後藤幸正
河野通之	近藤泰夫	白木良昭 <sup>○</sup>	菅原操
杉木六郎 <sup>●</sup>	清野茂次 <sup>○</sup>	田中茂美	田原保二
多田安夫	武田昭彦 <sup>●</sup>	只野直典 <sup>●</sup>	丹泰美 <sup>○</sup>
塚山隆一 <sup>●</sup>	土岐高史 <sup>●</sup>	友永和夫	中村正平 <sup>○</sup>
仁杉巖	西沢紀昭 <sup>○</sup>	沼田政矩	野口功 <sup>○</sup> 幹事
藪島治郎	林正道	坂静雄	深谷俊明
藤田嘉夫	船越稔 <sup>○</sup> 幹事	星野真佐夫	松野操平 <sup>○</sup>
松本嘉司	丸安隆和	三浦一郎 <sup>○</sup>	水野俊一
水野高明	宮川一郎	宮崎昭二 <sup>○</sup>	宮崎義成
村田二郎	百島祐信 <sup>○</sup>	山崎寛司 <sup>●</sup>	山田順治
湯田坂益利 <sup>○</sup>	横道英雄	劉紹杉 <sup>●</sup>	渡辺和夫

○印はプレストレスト コンクリート設計施工指針改訂小委員会委員

●印はグラウト専門委員会委員